

モンゴル滞在報告

～日本からサインバエノー～

3/9 ウランバートル発 成田着

社会福祉学部

伊藤久美子、金夏望、鈴木彩乃
鈴木結衣、根本夏恵

< 2013 3/4 ~ 3/11 >

3/4 成田発 ウランバートル着
3/5 児童養護施設 ASIAN RESTRANT
3/6 デパート モンゴル国立大学 モンゴル日本センター 市役所広場 ムンフさん宅
3/7 テレレジ国立公園 ロシア料理屋
3/8 市場 ケーキ屋 GOBI サウナ
3/9 スーパー 児童養護施設
3/10 デパート フェルト 展望台 バレエカレー屋
3/11 ウランバートル発 成田着

1. 背景

これは 2013 年 1 月のお話。

根本：「2012 年の 3/2-3/9 に行ったモンゴル楽しかったなー！

今年も行きたいなあ (*´ω`*)」

伊藤：「山下先生今年は夏しか行かないらしいよ！！

夏は旅費高いからな…(´・ω・`)」

金：「じゃあ、自分たちだけで冬に行こうよ!!(°▽°)

もちろんムンさんの力を借りてね

(´▽`)」

根本：「いいね！(・▽・) 山下先生も『勉強は楽しくてもできるよ』って教えてくれたし、モンゴルで自分たちがやりたいこと自由にやってみようよ！」

鈴木(結)：「日程はこれだ！！」

< 2012 3/2 ~ 3/9 >

3/2 成田発 ウランバートル着

3/3 児童養護施設 ムンフさん宅

3/4 川 テレレジ国立公園 韓国料理屋

3/5 一時保護施設 芸術訓練校 テレビ局中華料理屋

3/6 ガンダン寺 展望台 モンゴル国立大学 カレー屋

3/7 スーパー 大衆食堂 GOBI モンゴル自然史博物館 ロシア料理屋

3/8 スーパー 市場 ケーキ屋 児童養護施設

みんな：「賛成ワ-イ、(°▽°)×(°▽°)×(°▽°)ワ-イ」

伊藤：「モンゴルに行きたいって鈴木(彩)が言ってるんだけど誘っていい！？

(^ω^)」

鈴木(彩)「よろしく(´<`´) ヌフサツ」

みんな：「賛成ワ-イ、(°▽°)×(°▽°)×(°▽°)ワ-イ」

こうして去年モンゴルに行った 4 人にもう 1 人が加わって、一週間のモンゴルの旅が始まった。

私たちのモンゴル訪問は、3 月 4 日(月)から 3 月 11 日(月)までの日程で実施された。日本からの飛行便は例年同様 MIAT (モンゴル航空)である。冬季は週 2 便が成田空港からの発着があり、所要時間はウランバートル空港まで約 5 時間である。モンゴルではチベット暦のお正月が終わると春がきたと言われるが、正月は 3 週間前に終わったと言うのに、肌を刺すような厳しい寒さであった。

今回の訪問は少人数ではあったが、5 人中 4 人が二年続けて訪問していることやメンバーのひとりひとりが目的をもっていたこと、そしてなによ

り「会いたい子どもたちがいる」「私たちが待っている子どもたちがいる」という共通の強い思いがあったことで、一体感はすぐに生まれた。

モンゴルの経済状態は相変わらず厳しいが、ウランバートル市街地では一年前にはなかった建物があちらこちらに建築されているのがザイサンの丘展望台の景色から感じられた。しかし、こうした活況もウランバートル市外であるテレルジ国立公園までの道のりで観た市井の人々の暮らしとはほとんど無縁であり、林立する建物群は経済格差の象徴のように思われた。自国とは大きく異なる環境でどれほど感じ、学べるか。好奇心と期待、そして子どもたちに会いたい思いでいっぱい私たちが「楽しみながら学ぶこと」をモットーに活動した7日間は、それぞれの意識や行動に刺激をあたえてくれた。

※1：モンゴル国立大学の非常勤講師として日本語を教えているムフ・ジャルガルさんのこと。モンゴルの母と私たちは呼んでいる。

※2：日本社会事業大学院の先生で、大学の授業も受け持っている、世界の山下と称されるスクール・ソーシャルワークを日本で普及させた先生のこと。先生は、モンゴルへは数えきれないくらいの訪問をしている。



2 訪問

1) ウランバートル市立特別訓練センター

この施設は、1997年にマンホールチルドレンの保護を目的としてウランバートル市によって設立された児童養護施設である。施設では、様々な生活訓練や職業訓練が行われている。18歳になった子どもたちは施設をでなければならぬ。しか

し、18歳から21歳の青年を対象と職業訓練を行う新しい施設が同じ敷地内に建設され、近々開設されることになっている。昨年、私たちは山下先生が企画してくださったモンゴルスタディツアーでこの施設を訪問した。今回の私たちのモンゴル滞在の目的は、ここにあった。私たちは、この施設で暮らす子どもたちにもう一度会いたかったのである。施設の訪問では、施設内の見学、先生方とお話する機会を設けていただいた。子どもたちは、音楽演奏やダンスを披露してくれた。また、山下先生や通訳のムフさんの助言をいただきながら自分たちで考えた企画を行った。

一つ目の企画は、子どもたちのことをもっと知るために、子どもたちに自分の夢について絵に描いてもらうことにした。そして、その夢について詳しく聞かせてもらうことにした。私たちが施設を訪問したとき、学校に行っている子もいたので、全員の子に描いてもらうことはできなかったが、それでも多くの子がこの企画に参加してくれた。自分の夢について話してくれる子どもたちを見て、たくさんの困難があることはわかっているつもりだが、この子たちの夢が叶えばいいと思わずにはいられなかった。また、話してくれたことに本当に感謝したいと思った。

二つ目の企画は、子どもたちにハヤシライスを作ることである。この企画は、昨年行ったものである。辛いのが苦手な小さな子もいるため、カレーライスではなくハヤシライスを作っている。施設訪問時に、ムフさんが「子どもたちが、今年もカレーライス(本当はハヤシライスなのだが)が食べられるのかと言っていますよ」と言ってくれたときは、とてもうれしかった。調理を手伝ってくれた子どもたちは、とても手際がよく、私たちを助けてくれた。おいしそうに食べる子どもたちを見て、ハヤシライスを作って本当によかったと思った。

私たちは、大学で日々社会福祉について学んでいる。モンゴルの子どもたちは、日々の勉強や生活の中で忘れてしまう「なぜ私は社会福祉を学んでいるのか」ということを、思い出させてくれる。

そして、子どもたちと関わることで生まれた「また会いたい」という気持ちや「この子たちの助けになりたい」という気持ちが、勉強やバイトなどの生活に対する意欲を高めてくれる。今回、福祉フォーラムでモンゴルの子どもたちについて発表することにしたのも、私たちなりに子どもたちのために何ができるかを考えた結果である。



2) 展望台 ザイサン の丘

ウランバートル市の中心、スフバートル市から南に3kmいったところにある展望スポットで、1939年にモンゴル東の国境付近で起きた「ハルハ川戦争」のモンゴル人民義勇軍の友軍となったソ連兵の記念碑がある。市民は、初デート・卒業



式・結婚式などの人生の節目、節目にこの丘に登る。ウランバートル市を広く見渡すことができ、今年の3月に登った際は高層マンションや新しい学校の建設が盛んに行われている様子が見受けられた。

3) モンゴル日本センター

3日目にモンゴル国立大学の学生と交流した後、学生に案内してもらった。モンゴル日本センターは、モンゴルの市場経済発展を目的として2002年に設立され、2008年には来館者は89万人に上った。正式名称は、モンゴル日本人開発西武という。日本図書の図書館や留学情報があり、日本語のセミナーや相互理解のイベントが行われる。私たちが行ったときは3月ということもあり、立派な七段飾りの雛人形が飾ってあった。

4) スフバートル広場 (モンゴル国会議事堂)

モンゴル日本センターに行ったあと、近くにある市役所広場に行った。ここでは、モンゴルの英雄であるチンギスハンの銅像やスフバートルの銅像がある。女性の日が近いということもあり、バラを配っている男性と出会いバラをいただいた。



5) 緊急一時保護センター

ウランバートル市に38か所の施設がある、権利擁護や犯罪予防のための施設である。現在は62人が保護されているが、そのうち3人は18歳以上の管轄から外れている子どもも保護されている。2011年は889人の受け入れをし、671人は一度の保護で済むが、中には何十回も保護回数を繰り返す子どももいて、三分の一はストリートチルドレンに再び戻ってしまう現状がある。モンゴルの浮浪児童は、保護された場合にまず住所の確定や理由の審査を行い、それに応じて施設への入居や、自宅へ帰す等を行う。日本が30年かけてしてきた発展をモンゴルは急速にしているため、社会問題はより複雑になっている。

おわりに

今回の訪問で大きな壁となったのは自分たちで企画し、お金の管理を行わなければならないということだ。昨年山下先生や高橋さんにおんぶにだっこの状態だった私たちは、経験者が多いとはいえ戸惑うことばかりであった。しかし、そうした悩みも、通訳だけでなく時には母のように見守ってくれたムンフさんの存在があったこと、参加した全員が自然に自分の役割を見つけ行動していたこと、毎晩集まってミーティングを行ったこともあり、たとえ迷いはあれ、濃密な時間を過ごすことができたと思う。「楽しみながら学ぶこと」で得られた学びを具体的に説明することは少し困難であるが、出会った人々や福祉サービスのあり方、さらには教育現場の現状、自然環境それらの記憶は私たちの脳裏にしっかりと刻印されている。

鈴木(彩)「モンゴル楽しかったねえ(°▽°) 朝青龍にも会えたり最高!!」

根本「来年も行こうよ! 今度はいろんな学年も誘ってさ!!」

私また企画する! この楽しさみんなに伝えたい(*´ω`*)

金「なあ みんな…。こうやって うちらから…変ってこうぜ?」

伊藤「このツアーが1人でも増えたらいいね!!」

60億分の1が変われたら そこからどんな変っていけるって信じてるんだ!

鈴木(結)「それ山下先生の受け売りじゃーん (´・ω・`)ww」

みんな「ここまで読んで頂き、ありがとうございます!!」

是非一度モンゴルに行ってみてください (^ω^)

それでは! Баяртай(´▽`*)/」

